

今回は新任の先生に、授業で感じたことや大切にしてきたことを執筆していただきました。

誰もが楽しむことのできる授業づくり

岡崎市立六ツ美北部小学校 安藤 優

「ボールになかなか触れられないし、ボール運動は好きじゃない。」子供のその言葉を聞いて、誰もが楽しむことのできる授業をつくりたいと強く感じるようになった。ボール運動が苦手な子供は、「ボールになかなか触れられない」「ボールが当たるのが怖い」などの理由で苦手意識をもっていることが多い。そこで、教材・教具の工夫をすればもっと多くの子供が楽しめるのではないかと思い、フラバールバレーボールを教材に選んで実践した。大きなボールは、当たっても痛くない。落下速度が遅いため、状況を整理しながらプレイを展開しやすい。また、変形しているため、意外な方向に飛んで行く。

子供は初めて見るボールに「何この形!」「やわらかい!」と興味を示した。最初は、バウンド後のボールの動きに戸惑う姿が見られたが、ボールの動きを予測したりコントロールの仕方を考えたりして、だんだんとゲームの魅力にひかれていく様子が見られた。ラリーが続くようになると、自らボールに向かっていく子供が増えた。授業が進む中で、子供は「全員がボールに触れるためにはどのようにしたらよいのか」という課題を見いだした。全体で共有し、解決策を考える時間を設けると、ポジショニングを工夫する作戦が生まれていった。その後も、子供の困り感に教師が寄り添うことで、主体的に作戦を考えたり、ゲームの中で解決したりする様子が次から次へと見られるようになった。

今回の実践を通して、全ての子供が進んで参加できる授業にしていく価値を強く感じた。これからも誰もが楽しむことのできる授業をつくっていくために、子供の実態をよく把握し、子供の興味や課題意識を大切にしていきたい。



体育から笑顔を広げたい

岡崎市立上地小学校 阿部有彩

春、級訓を決めた。「にじ色32ピース」。虹色の笑顔があふれるように個性を認め合い、互いが助け合うという願いを込めたものだ。今日まで、一人一人が役割を果たし、苦手なことがあってもみんなまで応援していこうとする雰囲気づくりを心がけてきた。

ある日の体育。ティーボールの授業でAが「何もうまくいかない」とつぶやいた。顔を見ると、いつもの元気がない。ボールが小さく、上手くバットに当たらないことでやる気を失っているようだ。バットにボールが当たらず、困っているのは、Aだけではなかった。

そこで、バットに少しでもボールが当たるように少し大きめの室内テニス用のボールを用意した。するとそのボールを見たAとたん、「これならできそう」とAの顔がぱっと明るくなった。これまでより前向きにゲームに取り組むAを見て、チームの仲間もバットの振り方や打つ方向のアドバイスを熱心にするようになった。そして、その後の試合では、チームのみんながAの打席を見守り、「できるよ。がんばれ」と声をかけ、手をたたきながら応援する姿があった。そしてAの打席。「セーフ」。やっとの思いで一塁ベースにたどり着いたとき、Aから笑顔がこぼれ、仲間からは歓声があがった。

本学級には体育科の授業が好きという子供が多い。だからこそ、体育をもっと楽しく、できた達成感が味わえるように手だてを考えていきたい。体育の授業から子供たちの笑顔を引き出し、広げ、「明日も学校に行きたい」と思えるような授業づくり、学級づくりに精一杯取り組んでいきたい。



大きな声とグッドな笑顔

岡崎市立六ツ美西部小学校 小黒柚葉

「大きな声とグッドな笑顔の持ち主」。4月、子供たちにこう自己紹介をした。自慢の声と笑顔で、子供とともに笑顔あふれる明るい学級にしたいという思いを抱きながら、学級をスタートした。

11月、ティーボールの授業を行った。ソフトボールを専門としていた私は、ベースボール型の難しさを知っている。そのため、どのように授業を展開していくべきか悩んでいた。第1時には試しのゲームを行ったが、打球を捕ることができず、たくさんの失点をしていた。「全然ボールが捕れないよ。」「勝てないや。」という言葉が聞こえた。そこで、子供たちが楽しみながら技能を高めることができるように、ゲームを軸に単元を組み直し、ゲームの中で見つかった困りごとを解決していくことにした。子供から挙がった課題に応じてタスクゲームを行っていくうちに、どのように捕球すればいいのか、どんな送球だと仲間が捕りやすいのかなどをチームで考える姿が見られるようになった。単元最後のティーボール大会では、バッターの後ろで素振りをする姿や、「ライン際に打ってみなよ。」とチームの仲間に声をかける姿、守備位置を工夫している姿があった。目の前に広がる子供の成長した姿に、「ナイスプレー！」と、思わず大きな声が出た。子供たちにも私にも大きな声とグッドな笑顔があふれていた。

単元が進むにつれて子供たちの笑顔は更に増え、ゲームを通して運動することの楽しさと喜びを味わっているように感じた。今後も、大きな声とグッドな笑顔で目の前の子供と向き合い、運動することの楽しさや喜びを味わうことのできる授業を目指して、研鑽を積んでいきたい。



関わり方

岡崎市立六ツ美北中学校 若尾遥香

私は、実際に教員として働く前から、子供と深く関わることを大切にしながら、授業を展開していくと心に決めていた。しかし、この「関わり方」への考えは、半年間で大きく変わった。

4月、いざ子供の前に立ってみると、緊張して授業はうまくいかなかった。子供と深く関われないことで、私は授業を楽しめず、子供も笑顔が少なかった。ある日、「こつを教えてください！」と子供から歩み寄ってきたことがあった。不甲斐ない自分を頼ってくれたことがとても嬉しくて、手の着く位置や着き方、視線を置く場所を段階的に助言した。「後転が初めてできた！」と喜ぶ子供の姿に更に嬉しくなった。それからは、子供同士で教え合う姿が見られるようになった。私は、どんな単元でも子供と一緒に学んだり、子供目線で授業を考えたりしたいと思うようになった。人との関わりを大切にすることで、困っている子供にとって、自己の学びが深まり、新たな学びが得られる授業をしたい。

六ツ美北中学校には、困っている友達がいるとすぐに気が付いてアドバイスをしたり、相談に乗ったりするなど仲間を大切にできる子供がたくさんいる。教師が一方的に教えるのではなく、話し過ぎず、子供同士で学び合う授業をすることが私の使命だと感じた。初めは授業の雰囲気重たかったが、今は活発な声が聞こえてくるようになった。子供が主体的に動けるように、関わり方を考えながら、子供とともに学び続ける教師を目指していきたい。



体育部自主研修会「がん教育」の参加者募集

「がん教育」は、現行の学習指導要領で必修となった内容です。小学校では、4月から保健の教科書が変わります。新教科書では、詳しく取り上げられています（下記資料参照）。講師は、市内養護教諭の先生方です。参加を希望される方は、各校の体育主任に申し出てください。多くの方のご参加をお待ちしています。

○日時

2月21日（水）

17:15～

○場所

岡崎市総合学習
センター小ホール



がんはどんな病気？ ほっぺん 59ページ

●がんは身近な病気
がんは、日本人の二人に一人がかかるといわれる身近な病気です。人間の体は、多くの細胞が集まってできていますが、正常な細胞が異常な細胞に変わってしまうことがあります。がんは、この異常な細胞が増えたら病気です。

●健康的な生活習慣で予防する
がんの多くは、生活の仕方と深い関わりがあります。このようながんは、たばこを吸わない、お酒を飲みすぎない、バランスのよい食事をとる、日ごろから全身を使った運動を行う、といった健康的な生活習慣を続けることで、ある程度防ぐことができます。

がんの起こり方

生活習慣などが原因で、異常な細胞ができる。

異常な細胞が勝手に増えていく。

異常な細胞がさらに増えて、体の動きを悪くする。